

令和 4 年 6 月 28 日現在

機関番号：24506

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18K05710

研究課題名（和文）公園リノベーション時代の造園技術者に必要な新職能のオーラルヒストリーによる具体化

研究課題名（英文）Embodied by oral history of new job skills needed for landscape architects in the era of urban park renovation.

研究代表者

平田 富士男（Hirata, Fujio）

兵庫県立大学・緑環境景観マネジメント研究科・教授

研究者番号：80316041

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、新規整備事業とはその進め方が根本的に異なる都市公園のリノベーション事業の構造を明らかにし、そこでの課題と解決方法を明らかにするため、リノベーション事業の担当者へのヒアリング等をつうじて、その事業内容を構図化した。そのうえで、その事業の各段階で事業担当者がどのような業務に課題意識を持っているのか、またその課題を解決するための方策の方向性について検討した。特に、民間事業の導入にあたっては、その公園の設置目的を明らかにすること、そのための過去の事業資料の適正な保存を進める必要があること、そのために都市公園台帳を活用することが有効であることなどを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

公共施設の整備は、今後新規整備から既存施設の長寿命化、そしてリノベーションが中心となる。しかし、まだリノベーション事業の計画手法は確立されていない。本研究では、都市公園のリノベーション事業は、どのような流れで進めるべきか、その構造を明らかにするとともに、その流れの中での民間事業導入時に公募者側が留意すべき事項、それを適正に進めるために必要となる公文書保存の実態とその重要性を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：In order to clarify the structure of urban park renovation projects, which are fundamentally different from new development projects, and to identify the challenges and solutions, we have structured the projects through interviews with those in charge of the renovation projects. Then, we examined what kind of issues the people in charge of the project are aware of at each stage of the project, and the direction of measures to solve those issues. In particular, we clarified that, when introducing a private project, it is necessary to clarify the purpose of establishing the park, to promote the appropriate preservation of past project data for this purpose, and that the use of the city park ledger is effective for this purpose.

研究分野：都市緑地計画

キーワード：公園リノベーション Park-PFI 民活導入 公園リニューアル 造園事業者の職能 公文書 都市公園台帳

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

都市公園事業は、平成29年の都市公園法の改正等を契機に急速に都市公園「建設」都市公園「リノベーション」へと時代が変革しようとしている。

このような変革のなかで、今後造園技術者は、公園全体をよりよいものにしていくプロデューサーとしての技量・見識を問われることとなる。

ところが、これまで造園の学術研究は、基本的には新規公園・庭園の計画・設計・建設に関するものが長く続いていた。そこに平成16年の「指定管理者制度」を契機としてようやく「整備後の公園のマネジメント」に関する研究が増えてきた。この拡大は、造園技術者のこれまでのプランナー、デザイナー、コンストラクターとしての職能に、建設後の公園で活躍するアクター、マネージャーの職能を加えて明らかにしてきている。

しかし、これらの役割の具体像はまだ明らかになっていなかったため、そのような人材育成を進めていく上でも公園リノベーション時代に必要となるプロデューサーとしての職能の内容を具体化する必要があった。

2. 研究の目的

本研究は、この時代変革に伴い求められる職能も大きく変化していくなかで、ハード施設の計画・建設技術をそのコア職能としてきた造園技術者が今後とも活躍しつづけ、造園の職域を確保していくために必要となる「これからの造園技術者に新たに必要となる職能像」を明らかにすることを目的とした。このため都市公園リノベーションの拠点となる行政の公園部局の造園系技術公務員の動きに着目し、優良プロジェクトとして評価されているものの完遂に向けて、彼らがどのような時期に、どのような技術、能力を発揮したのか、をオーラルヒストリーの分析から明らかにし、必要な職能像を明確にする。さらにその職能獲得に必要な大学教育カリキュラムモデルを構築・提示し人材育成の目標面からもその像を明確にすることを目的とした。

3. 研究の方法

研究は、公園リノベーション事業に携わった行政の担当者のオーラルヒストリーを書き起こして、その内容分析を進め、そこから彼らが実施していた職能像を明らかにしていくとともに、その職能が適切に推進されていくために必要な事項を抽出していく方法をとった。

具体的には、

公園リノベーションの成功事例として評価されているものを抽出(10件程度)

プロジェクト完成までの経緯等に関する客観資料を収集

同時にそのプロジェクトで実質、中心的役割を果たした技術公務員へのインタビューから、そのプロジェクトでの「事業推進オーラルヒストリー」を書き起こし

ヒストリーの内容からこれまでの造園技術者職能とは異なる業務と成果を抽出、それらを複数の専門家の視点でチェックし、今後の新たなコア職能と考えられるものを整理

で抽出した職務推進のために現場で必要とされていたことをさらに広い範囲で行政にアンケートを行い、今後行政の現場で求められていることを明らかにしていくという手順で進めた。

4. 研究成果

(1) 公園リノベーションプロジェクトの一般的な「事業フロー」を構図化

研究は、まず近年注目されている公園のリノベーションプロジェクトを文献等から8箇所抽出し、そのプロジェクトを事業着手時から主導した行政の担当者を探り出し、その全てに対して直接面会してインタビューを実施した。

その結果を整理することにより、新規整備とは異なるリノベーションプロジェクト特有の事業の流れが明らかになってきた。またその過程のなかで、これまで新規整備の担当が中心であった各担当者が、新規整備とは異なるリノベーションプロジェクトのなかでどのようなことに苦労をしながらプロジェクトをやり遂げたか、も明らかになってきた。

このような整理から、公園リノベーションプロジェクトの一般的な「事業フロー」を構図化することができた。

また、公園リノベーションプロジェクトを今後円滑に進めていくためには、そのチャート内の各段階でどのようなことを解決していかなければならないか、という課題も明確になってきた。そのような課題をあげると「行政担当者にリノベーションプロジェクトへの着手意識をふだんから醸成していくマスタープランのあり方の検討」「民間事業者の公募・選定を円滑に行うための募集要項の内容のあり方の検討」「決定した民間事業者と以降の事業・運営で問題を生じさせないような基本協定のあり方の検討」「開園したまま多種多様な工種を短期間で仕上げる総合的な施工管理技術の修得のあり方の検討」などとなった。

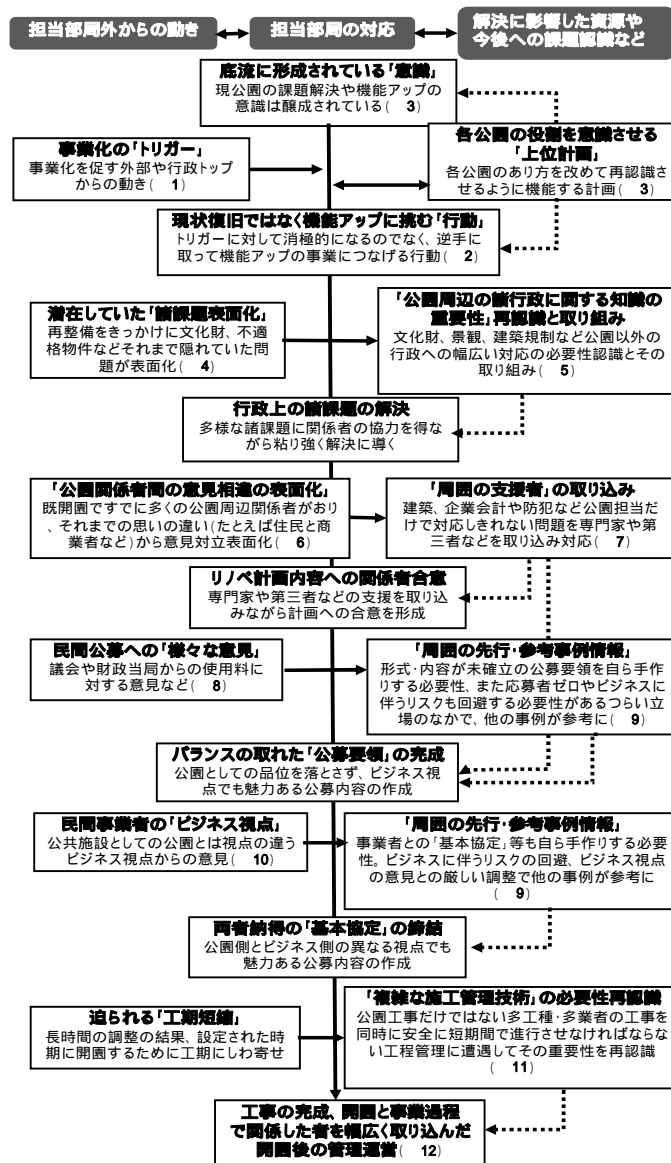


図-1 公園リノベーション事業プロセスの全体構図

(2) リノベにおける民間事業導入に際し現場が重要と考えていることの明確化

(1) の成果であるフローのなかで、最初に行政担当者が取り組む「民間事業の公募」手続きにおいて、どのようなことに課題意識を持ち、どのような業務に取り組んだのか、また、今後どのような業務が重要になってくると考えているのか、を公募要項の資料分析、行政担当者へのヒアリング、およびアンケート、それらの結果と公式な指導書（都市公園法、および関係法令、それらの解説書等）の内容比較によって客観化した。その結果、行政の現場では、法令や解説書によって指導されている「公募要項への記載事項」とは異なる事項（たとえば、対象公園の都市計画上の位置づけ、期待される役割、その機能発揮のための民間事業への期待、行政側から提供できることなど）を重視して取り組んできており、また、今後もそのような事項をさらに充実させていきたい、とうようなことが明らかになった。これらの事項の重要性は、関係法令や解説書ではあまり指摘されておらず、今後リノベーション事業を促進していくうえにおいては、これらの結果を踏まえた普及活動が求められることを明らかにした。

(3) リノベーションを的確に推進するために必要となる公文書類の明確化

リノベーション事業の計画検討にあたり、プランナーが実際にどのような業務を行っているのか、を業務発注の仕様書分析から明らかにしようとしたが、それらの公文書の公文書保存のルールによって廃棄されている実態に直面した。

このため、その実態を客観化してその実態に警鐘をならすこと、また、どのような対策を講じれば事業に関する情報が廃棄されずに保存できるのかの提案にかかる研究を行った。前者については、全国の政令指定都市の公文書保存条例等の例規等の分析からどこの市においても多く

の資料が5年、あるいは10年で廃棄されて行っていること、また、その実態に現場担当者も危機感を持っていることなどを明らかにした。また、そのような公文書情報の保存のためには、法的に永久保存が義務づけられている文書（都市公園の場合は、都市公園法に規定される「都市公園台帳」）への情報の移転を検討し、その可能性について現場担当者の意見も聞きながら検討した。この結果、台帳の活用について一定の可能性があることが明らかになった。

公文書の廃棄が急速に進みつつある今、これまでの事業の成果をきちんと情報として残していくためには、都市公園台帳の活用も含め早急な対応が求められる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 平田富士男・橋俊光	4. 巻 84-5
2. 論文標題 リノベーションへの活用可能性から見た公園計画設計資料の公文書としての保存状況	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ランドスケープ研究	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5632/jila.84.499	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 橋俊光・平田富士男	4. 巻 84-5
2. 論文標題 リノベーションへの活用を見据えた都市公園台帳の調書記載内容の拡充の方向性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ランドスケープ研究	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5632/jila.84.495	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 橋俊光	4. 巻 2020-8
2. 論文標題 公募設置管理制度（Park-PFI）推進支援の取組み等について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 積算資料	6. 最初と最後の頁 8-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 橋俊光	4. 巻 653
2. 論文標題 公民双方の関心が高まるPark-PFI - 先行事例の課題から効果的な運用・改善へ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 月刊レジャー産業資料	6. 最初と最後の頁 32-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋俊光	4. 巻 81
2. 論文標題 公募設置管理制度（Park-PFI）推進支援の取り組み	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 公園緑地	6. 最初と最後の頁 7-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平田富士男・橋俊光	4. 巻 83-5
2. 論文標題 大都市市街地の都市公園リノベーション事業優良事例に見る民間公募要項作成上の重点	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ランドスケープ研究	6. 最初と最後の頁 533-538
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5632/jila.83.533	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 橋 俊光	4. 巻 2019年8月号
2. 論文標題 「公募設置管理制度（Park-PFI）」推進支援のための取り組みについて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 積算資料	6. 最初と最後の頁 11-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 平田富士男・橋俊光	4. 巻 82
2. 論文標題 大都市市街地の都市公園リノベーション事業優良事例から見た事業プロセスの全体構図	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ランドスケープ研究	6. 最初と最後の頁 493-498
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5632/jila.82.493	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 平田富士男・橘俊光
2. 発表標題 大都市市街地の都市公園リノベーション事業優良事例に見る民間公募要項作成上の重点
3. 学会等名 2020年度 日本造園学会全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 平田富士男・橘俊光
2. 発表標題 リノベーションへの活用可能性から見た公園計画設計資料の公文書としての保存状況
3. 学会等名 2021年度 日本造園学会全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 橘俊光・平田富士男
2. 発表標題 リノベーションへの活用を見据えた都市公園台帳の調書記載内容の拡充の方向性
3. 学会等名 2021年度 日本造園学会全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 平田富士男・橘俊光
2. 発表標題 大都市市街地の都市公園リノベーション事業優良事例に見る民間公募要項作成上の重点
3. 学会等名 2020年度日本造園学会全国大会研究発表会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Fujio HIRATA
2. 発表標題 Current status and future tasks of community garden in Japan
3. 学会等名 Collaborative workshop on community garden between Konkuk University and University of Hyogo
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Fujio HIRATA
2. 発表標題 Designate manager system of Japanese urban park, the achievements to date and the future taskこれまでの推進と今後の課題
3. 学会等名 2019 Park Management Seminar in Seoul Sup
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平田富士男・橘俊光
2. 発表標題 大都市部市街地の都市公園リノベーション事業優良事例から見た事業プロセスの全体構図
3. 学会等名 2019年度日本造園学会全国大会研究発表会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 平田富士男 ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 神戸新聞総合出版センター	5. 総ページ数 71
3. 書名 世界とシェア！緑の戦略 ～みどりがまちを変えていく～	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	橋 俊光 (Tachibana Toshimitsu) (90875824)	兵庫県立大学・緑環境景観マネジメント研究科・客員研究員 (24506)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関